

第五七一回 一二月一九日(水)

会計のしくみ

——ペルシア語簿記術指南書が映す

財政と経済——

東京大学非常勤講師 渡部 良子

(1) ペルシア語簿記術指南書とは何か

第三回は、イラン高原ペルシア語世界の財務帳簿作成手引きⅡ簿記術指南書に、一三一—一四世紀モンゴル帝国分家イルハン朝下のイラン社会の財政・経済がどのように照らし出されるかを考えた。

ペルシア語簿記術指南書とは、イスラーム文化で発展した書記のアダブ(教養)書に属する文献類型である。七世紀以降、イスラーム王朝の行政機構の形成・アラビア語官僚技術の発達に伴い専門的識字層としての書記(カーティブ)が台頭すると、アラビア語正書法・文法、文書起草規則・用例、また教養人として書記が守るべき作法などの書記の学Ⅱ書記術を伝授する文献が発達し、アラビア語からペルシア語、テュルク語文語へと継承された。広義には文書術(インシャー術)、財務術、イスラーム法文書起草術を含む書記術は、公文書起草のみならず広く社会の書簡規範

を示すインシャー術指南書、イスラーム法文書手引書・公証人マニユアルを生み出したが、財務術に関しては現在確認される限り専らペルシア語圏でのみ指南書ジャンルを確立した。ペルシア語簿記術指南書の史料的可能性は早くから注目されてきたが、近年、指南書が示す財務技術史への関心が高まり、史料校訂・研究が活性化しつつある。日本においても「イスラーム圏における簿記史料の通時的・共時的研究」(科研費基盤研究B、二〇一六—二〇一九年度、代表・高松洋一)が東洋文庫を拠点とした研究会を行い、イスラーム圏の財務技術史研究の基盤作りに寄与している。

(2) 指南書が語る財政制度のしくみ

ペルシア語簿記術指南書は(一)財務術語、暦法などの知識、(二)算術、(三)簿記術(財務記数法スィヤーク、帳簿作成・簿記)、(四)財務帳簿の作成指南・用例を基本的内容とする。その伝統的簿記術とは高度に体系化された専門技術であり、特にアラビア語数字の崩し字である財務専用記数法スィヤークは、機密保持の役割を持った。

指南書が伝える各種財務帳簿用例は当時の財務運営システムを知る手がかりであり、一三一—一四世紀モンゴル支配期の指南書作品群の帳簿用例からは、後掲図のようなイルハン朝の年度会計制度が再構成できる。またこのような財

務技術は、財政上の問題に対応し変化してきたことも、指南書は示している。モンゴルのイラン支配は様々な財政上の変化をもたらしたが、その一つに第七代イルハン・ガザン即位前の財政危機の一因となったバラート制度の破綻がある。中央経費は多くの場合バラート(支払命令書)により徴税地に直接割り当てられ支払いが命じられたが、モンゴル支配下ではこのバラートが多用され、一三世紀末内訌に伴う財政窮乏・バラート濫発が徴収不可能状態の頻発という事態を引き起こした。これは各徴税地の税収残余をチェックし過剰割り当てを回避するシステムを欠いていたためだが、改革により財政再建が図られたガザン期以後の指南書には、バラート発行と各徴税区の支出割り当て状況を記録・監視する二帳簿が登場している。この支出記録簿、アワールジャ帳簿は、一五世紀ティムール朝、一六世紀サファヴィー朝期にも継承され、主要帳簿としてさらに変化・発展したことが、後代の指南書から確認できるのである。

### (3) 簿記術指南書が映す経済活動

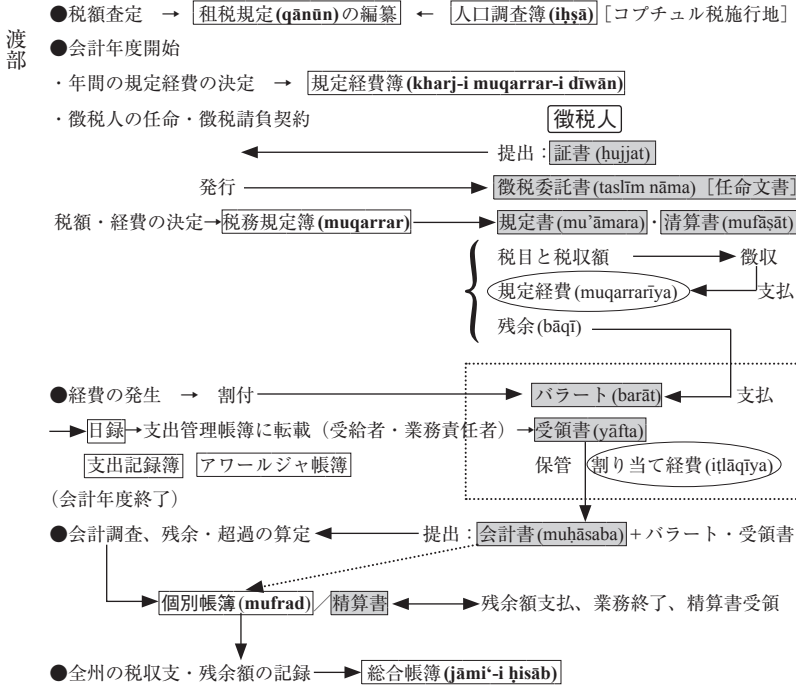
指南書の帳簿用例は、国家、特に君主宮廷を取り巻く経済活動と、経済を介した国家と社会のつながりを窺う手がかりにもなる。遊牧王朝イルハン朝時代の君主宮廷はイルハンの天幕(オルド)であり、イラン高原北西部で季節節

動をするオルドが政治・経済の中心として重要な役割を持った。指南書帳簿用例支出項目は、歳入がいかなる経費に支出され、地方・中央行財政、軍事、そして権力の中心としての宮廷が運営されていたかというモデルを示している。本報告では、一四世紀半の指南書『ファラキーヤの論説』から、土木建設帳簿、王領地稲籾収穫管理帳簿、穀物庫帳簿、羊群管理帳簿を事例に、宮廷のために行われる経済活動の類型を見た。帳簿は経済活動の特徴と目的に即し独自の書式で作成されるが、建設帳簿は建築家のもと査定官・書記・物資調達担当の徴収人が任命され、事業期間を通し日々発生する建材費・労働者人件費を含む諸経費を算定・記録する日誌形式を取る。王領地稲籾収穫管理帳簿や穀物庫帳簿は、王領地の穀物が倉庫の管理下に置かれ、君主・ハレムの厨房、廷臣・各種宮廷工房職人への下賜、宮廷用・手当・喜捨用のパン原料、宮廷厩舎の秣、スーフイー修行場や孤児・未亡人への手当、貧者への喜捨というイスラーム的慈善政策などに支出される、農作物の管理・流通を示す。「全ての会計の中でも難しい」とされる羊群管理帳簿は、遊牧民の牧人に委託された君主の羊群から毎年得られる仔羊と牧畜収穫物をどのように徴収するかを示す。家畜群の管理は遊牧モンゴル政権の重要な経済基盤であるが、遊牧社会と農耕・都市社会が共存する西アジアの社会・経

図： 13-14世紀の財務術指南書の帳簿・文書用例から再構成される年間財務の流れ

徴税業務の流れと帳簿（帳簿）・文書（文書）

中央ディーワーン



済の多様性と国家財政の関わりを示すものだろう。簿記術指南書は、伝統的書記術を継承する書記官僚の技術伝承のあり方を伝えるとともに、国家財政の運営に関わる多様な経済活動のしくみを知る、有用な史料たりえるのである。